

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400224
法人名	有限会社 介護支援サ・ビス しるもと
事業所名	グル・ブホ・ム・シオンの家
所在地	上浮穴郡久万高原町久万 1 3 9 4 - 3
自己評価作成日	平成21年6月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年7月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホ・ムは四季折々の自然豊かな山々に囲まれた久万高原町の高台に位置する民家改修型のグル・ブホームです。「自由権の尊重」を基本理念に置き、入居者の意志、行動に対して、危険性がない限り干渉せず、自立と本人の望む生活を支援することに力を入れて取り組んでいます。家庭菜園のある広い庭での趣味の園芸、草引き、日だまりの縁側で友人とのおしゃべり、笛ヶ滝公園の散歩等、認知症になっても住み慣れた地域の中で、支え合う職員と共に自由楽しく暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

保育園・地域行事等に積極的に参加されており、町主催の夏祭り「久万踊り」には今年も参加する予定となっていた。又、地域の人やご家族・利用者と一緒にバーベキュー大会等も行い、交流されている。
献立は一汁三菜を基本としておられ、地元のもの・季節のものにこだわって食事を手作りされている。調査訪問時には、菜園のインゲン豆を収穫しておられた。又、テーブルを拭く人・下膳をされる人・エプロンをかけて食器洗いをされる方もうかがえた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・シオンの家

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

村越 タエ子

評価完了日

平成21年 6月 8日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 代表者と管理者が、様々な場面で理念の大切さと実践に向けた取り組みについて話し、住み慣れた地域での安心した生活と本人の望む自由な暮らしを支えるためのホームの理念を、職員全員で作上げ共有し、迷ったときには理念に戻り、実践に向け努力している。 (外部評価) 代表者は、グループホームが地域密着型サービスである事を十分意識し、運営しておられる。今年度、事業所の理念の見直しについて職員で話し合いをされ、全員一致で、引き続き現在の理念を共有していく事を決められ、実践に向けて努力されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営者が町内会の会合に出席したり、職員がクリーンデーや保育園の行事などに利用者と一緒にできるだけ参加し地元の方々との交流に努めている。又近くにあるスーパーへの日々の買い物や散歩等に出かけることで気軽に声をかけてもらったり、地域の方と顔なじみになってきている (外部評価) 保育園・地域行事等に積極的に参加されており、町主催の夏祭り「久万踊り」には今年も参加する予定となっていた。又、地域の人やご家族・利用者と一緒にのバーベキュー大会等も行い、交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 現在まで職場体験実習生の受入や認知症サ-ポ-タ-講座の開催、及び在宅で認知症高齢者を抱える家族の相談援助等を行ってきたが、もっと幅広く町内の方々に知って頂きたいと思い、久万高原町主催の夏祭り「久万踊り」に参加し4位入賞して多くの住民の方々にアピールした。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域に開かれ、共に歩むグループホームとして、運営推進会議が生かされている。利用者の日頃の様子や、ホームの取り組み等の報告を行ったり又運営推進会議委員にも敬老会や救命講習へ参加して頂いている。会議は、参加者からの質問、意見、要望等双方向的な会議になっている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は年5回開催されている。会議では救急法を学ばれたり、外部評価結果の報告もされている。又、利用者と出席者が一緒に食事をされることもある。民生委員の方より「地域の集会所がなくなったので、事業所を会合の場所に提供できないだろうか」との提案があり、代表者は、事業所の2階を使用しただくことを予定されている。会合に参加された人達にも行事への参加を呼びかけ、地域の人との交流をさらに深めていきたいと考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町が毎月1回開催する地域ケア会議に出席し、勉強会や情報の共有を図っている。町の担当者とは協働関係にあり、いつでも相談、助言が受けられる関係が構築されている。</p> <p>(外部評価) 町とは、認知症サポーター講座・うつ病講座等を協働して開催されている。運営推進会議では、市の担当者より、家族会の持ち方について助言をいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 「緊急やむを得ない」ケースとして医師の指示・家族の依頼により1例のみ行ったが、拘束は人権侵害に当たることを全職員が認識している。日々の業務チェック、見守り、巡回等及び職員への継続的な意識付け(身体だけでなく言葉掛けも)を行い、身体拘束0の方針で職員全員で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 代表者は日々のケアの中で職員にスピーチロックの意識付けを行っておられる。職員は利用者の外出を止めることなく、一緒に付き添っていく等して、利用者の自由な暮らしを支えておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 代表者・管理者が虐待に関してはっきりした考え、方針を持ち、カンファレンス等で常に話し合っている。身体的・精神的、全ての虐待を生じさせないように、職員のストレス解消を含め、継続的に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在まで当ホ - ムでは対象の利用者がいない為、勉強をしても職員に十分な理解が得られていない。法人内（他事業所）では権利擁護制度の利用者がいるので対応はできるが、今後研修に取り入れ職員が理解を深め、対象利用者の支援につなげられるよう取り組んでいく。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には当ホ - ムのケアに関する考え方や取り組み等をはじめ、GH協会から出ている「利用者の権利・倫理綱領」等を契約書と一緒にお渡しして不安のないよう十分に説明して理解、納得をいただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員の訪問が月2回あり、利用者が外部の人に思いを話せる機会になっている。又、職員にも個別に話ができるよう個々の部屋での会話を持つようにしている。出された希望や要望は日々のケアに生かしている。 (外部評価) 介護相談員2名が月2回事業所に訪問して、利用者の話を聞かれている。事業所では、外部評価が発行する県内事業所の家族アンケートの集計表をもとに「当事業所ではどうか？」と振り返る機会とされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者・管理者は常に職員の要望や意見を聞くように心がけている。職員雇用や運営の方針なども相談しながら、職員の意見・要望・提案がホム運営に反映されるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 代表者・管理者は、普段から職員と話し合う機会を持っておられる。職員は「代表者が仲間として話を聞いてくれるので話しやすく、代表者の考えが良くわかる」と話された。毎月のカンファレンス・消防訓練等を行う時には、当日勤務外の人には手当てを出しておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者が勤務に入っているため現場の状況を把握している。資格取得を奨励し、取得後は資格手当等を含め資格を活かせ、向上心を持って働けるよう労働環境づくりに努めている。	
			(外部評価) GH連絡協議会の研修を常勤、非常勤問わずなるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月のカンファレンスで発表してもらい、全職員が共有している。職場内では管理者や主任ワカがその都度指導している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 愛媛県GH連絡協議会に加入しており、毎年1回行っている相互訪問研修に参加している。又、毎月行われる協議会主催の研修会に1名ずつ出席し、ネットワーク作りや質の向上に取り組んでいる。町内の他ホムとの交流が今後の取り組み課題。	
			(外部評価) 愛媛県GH連絡協議会に加入しており、毎年1回行っている相互訪問研修に参加している。又、毎月行われる協議会主催の研修会に1名ずつ出席し、ネットワーク作りや質の向上に取り組んでいる。町内の他ホムとの交流が今後の取り組み課題。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居迄に本人と会って、できるだけ生活状況、身体レベル等の把握に努め、本人の思いをよく聴き、ホムの情報を伝え信頼してもらえるよう努力している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況等、じっくり話を聴き当ホ - ムではどのような対応ができるのか、双方の理解と納得が得られるまで家族の心情を理解しつつ話し合いをするよう努めている。出来る限り柔軟な対応をさせて頂いている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当ホ - ムは基本的に申し込み順に入居してもらっており、共同生活が著しく困難等、特別のことがない限り柔軟な対応を取らせてもらっているが状況によってはケアマネ - ジャ - 等と連携を取り、他のサ - ビスにつなげることもある。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時を過ごす家族のような関係作りに努めている。人生の先輩としてある時は教えられ、また共に喜び、共に悲しみ、支え合っていく生活を作り上げていく努力をしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 様々な家族の在り方があるが、それぞれに置かれた家族の思いに寄り添い共感しながら、喜怒哀楽を共にし、本人を支えていく関係を築くよう努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に住んでいた家を訪問したり、親戚、知人を訪ねたり、来てもらったりと、個々人の能力に合わせて馴染みの人や場所との関係がとぎれないように支援している。また入居前から利用している馴染みの美容院や理容院への希望があり、送迎支援している。 (外部評価) ご本人の希望や職員の声かけで以前住んでいた家を訪ね、近所の馴染みの人と会われることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲のよい利用者同士で座ってもらったり、孤立しがちな方は職員がつまく交わる場所を設定したりしながら利用者同士の関係の支援をしている。又、軽度の方が重度の方を思いやり、手助けし、共に支え合って暮らす支援に努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームでの対応が困難になり、長期入院となってしまった利用者や家族との関係を断ち切らないようお見舞いに行ったり相談を受けたりしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、職員一人一人が把握に努めている。可能な限り本人の意向を第一にしているが、意思疎通の困難な方の場合、家族の希望や本人の表情、様子等から把握し希望に添っていけるよう努めている。	
			(外部評価) 日々の業務や会話の中から、ご本人の思いや希望の把握に努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 普段の関わりの中から本人自身への聞き取りや、家族・友人の来訪時などに担当職員が少しずつ把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人のできること(排泄、睡眠、生活習慣、趣味等)の全体像を日々の関わりの中で把握するよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の希望を第1とし、家族の希望や、一人一人の能力別に思いや願いを普段の生活の中からくみ取り、本人、家族、職員たちと話し合いプランに生かすようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人・ご家族の希望を聞きながら、職員で話し合い、介護計画を作成されている。3ヶ月毎に評価し、計画を見直されている。ご本人、ご家族に計画を説明する際、分かりやすいように本人用、ご家族用に介護計画書を作っておられ、それぞれと話し合われている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケース記録に一人一人の状態（食事、水分、排泄等）や会話等、生活状態が分かるように時間を追って記録している。いつでも全ての職員が確認、記入ができるよう共有し実践している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共用型デイサービスを含め、延長サービス、外出、送迎、通院等必要に応じ本人・家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域ケア会議、運営推進会議等で協力をお願いし普段から連携を取っている。また幼稚園や保育園、学校行事への参加等を行い、地域に関わり安心して暮らしていけるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の希望するかかりつけ医に月1回往診してもらっている。体調不良時は随時往診してもらったり職員が同行し診察を受け、病状を把握、家族と共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行するが、状況によってはご家族の同行をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 受診時には代表者や職員が同行されている。受診の様子は、その都度ご家族に報告されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 普段は介護職員で1人1人の体調管理や病状把握に努めており、変化時は24時間体制でかかりつけ医や法人内の看護職の指導が受けられる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時にはできるだけ短期間で退院できるよう主治医と話をする機会を多くもち、家族とも情報交換しながら、早期退院に向けて職員が頻繁に見舞うようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居後早期の段階で重度化に対するホームの考え方、対応方針、医療との連携等十分に説明し意志確認書を作成している。又、確認書にとらわれず、状況の変化に応じて話し合いを繰り返し、重度化や終末期に向けた支援をしている。当ホームでは開設当初より、本人・家族の希望に添うよう終末期ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所では、1月にご家族と協力しながら看取りを支援された。「重度化に伴う意志確認書」を作成されているが、状態変化時等には、その都度話し合いがなされている。終末期には、協力医や訪問看護とも連携を強め、取り組まれた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、毎年1回法人全体で救命救急法の勉強会を実施し、実際の場面で生かせるように取り組んでいるが、いざとなると慌ててしまう不安もあるので繰り返し訓練するように努めていく。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方等の訓練を年1回行っている。自治会にはホームの見取り図と利用者の身体状況(歩行困難等)をプライバシーに配慮しながら情報提供し、いざというとき1番に駆けつけてもらえるようお願いしている。又2名の職員がホ-ムの近隣に住んでおり、すぐに駆けつけられる状況にある。 (外部評価) カンファレンス時には、抜き打ちで職員に消防への通報の仕方を行ってもらうこともある。訓練を実施されているが、職員が慌ててしまうこともあり、職員は「昼間は他の職員もいるので安心だが、夜間は不安」という声もある。	今後も、利用者、職員のさらなる安心安全のために、継続して避難訓練を重ねていかれてほしい。例えば、事業所の見取り図を消防へ情報提供する等、いざという時のために備えられてはどうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンス時等に職員の意識向上を図ると共に、その時々に関わり方を代表者や管理者が利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応(特に人前でのトイレ誘導の声かけや入浴時の羞恥心に対する配慮、居室への入り方等)や自己決定の出来る言葉掛けの指導等を折々に行っている。 (外部評価) 利用者は日中居間で過ごすことが多く、職員は皆がいるところでのトイレ誘導の声かけに気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の持てる力に合わせて衣類の選択、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択、座る場所の選択等危険のない限りできるだけ自己決定してもらうよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、一人一人のペースを尊重し、「早く」「待って」という言葉を使わないよう心がけて利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員は見守りや支援が必要なおきに手伝うようにしており、着替え等本人の意志で決めてもらっている。自己決定がしにくい利用者にはできる限り本人の意向を聞きながら支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 家庭菜園で育てた野菜を利用者と一緒に採りに行ったり、調理の下準備や片付け等共にしている。そして同じテーブルにつき同じ物を食べ、楽しい雰囲気できている。	
			(外部評価) 献立は一汁三菜を基本としておられ、地元のもの・季節のものにこだわって手作りされている。調査訪問時には、菜園のインゲン豆を収穫しておられた。又、テーブルを拭く人・下膳をされる人・エプロンをかけて食器洗いをされる方もうかがえた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養が偏らないように高齢者食の本を参考にした調理を心がけており、食事の摂取状況を毎日チェック表に記録している。10時、3時のおやつ時及び入浴後等水分補給に気をつけている。また、普通食の摂取ができない方には個別に軟かく煮たり、トロミをつけたり又、原型を見てもらい食欲が増えてから直前につぶす等その人にあった工夫をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声かけを行い、チェック表の記入をしている。歯のない利用者さんに対しては、うがいをしてもらったり、自分でできない方は、ガゼ等を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人の排泄パターンやサインを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう声かけやトイレ誘導を行っている。また下着やパットを使い分けることにより本人の不快感の軽減や、自己負担である排泄用品の出費の軽減に努めている。	
			(外部評価) 昼間は布パンツで過ごされる利用者も多く、失敗されることもあるが、個々の排泄パターンに合わせて声かけ誘導され、排泄の自立を促せるよう努力されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食材での調理や散歩、水分補給等いろいろ工夫し、自然排便に向けて取り組んでいる。お汁は朝夕2回だったが、水分補給の意味もあり塩分には気をつけながら朝、昼、夕食の3回にした。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴回数、時間等個々人の希望に合わせてし、職員が見守りや介助をして、ゆっくり入ってもらっている。また夏場は勤務時間を変更、いつでもシャワーで汗を流せるよう体制を整えて、声かけしている。	
			(外部評価) ご本人の希望で一人でゆっくりと入浴される方もいる。お風呂に入りたがらない人もおられるが、職員はタイミングを見ながら入浴できるよう声かけされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物など日常の活動を通して生活リズムを作り、安眠できるよう支援している。寝付けない時には一緒にお茶を飲んだりおしゃべりやTVを見たりゆっくりした時間の中で眠りに入れるように支援している。日中も、おもしろい自由にお家で休息されている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の処方箋をシートにし、使用している薬を把握して正しく服用できているか確認している。1度誤配があったので、食後一人づつ名前を呼んで手渡すようにしている。症状の変化時等は協力医療機関に連絡して指示を受けている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 台所仕事、洗濯、布団干し、草花や野菜の世話、雪かきなどを利用者一人一人が無理なく楽しんで行えるよう支援している。また、カラオケやバーベキュー、季節季節の習わし事を、利用者と一緒にしている。観劇や好きな歌手のコンサートにも職員が同行し楽しみや気晴らしの支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物には必ず利用者で行くようにしており、回覧板を回したり、近所を散歩したり、地域の行事などにも積極的に参加している。観劇や墓参り、法事への出席等本人の行きたいところへ出かけられるよう支援をしている。	
			(外部評価) 日々の散歩や食材の買い出しの他、庭のテーブルで食事されたりお茶を飲まれたりする等、外気に触れることを大切にされている。菖蒲園・イチゴ狩り等に出かけたり、新聞を見て「ここに行ってみたい」という利用者の希望に沿って、出かけておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者1人1人の能力に応じて支援している。できる人にはお小遣いを自分で管理してもらい、買い物も職員と一緒に自由に行っている。能力に応じて美容院の支払い等も本人にまかせている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や電話のやりとり等、希望に応じて支援している。電話は子機を使用してもらい離れたところでも話ができるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間は和室で掘り炬燵があり、一般家庭と変わらない設えになっているので、利用者も来訪者も居心地よくリラックスできていると思う。振り子の柱時計や、職員手作りの物が飾られており暖かく親しみやすい家庭的な雰囲気があると思う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関まわりや庭・共用空間等には、季節の草花や観葉植物等が配されている。又、庭の一角には菜園もあり、それらを通して季節の移り変わりを楽しむことが出来るようにされている。調査訪問時、庭には七夕飾りが風にゆれ、風鈴の音が心地よく響いていた。事業所では、裏庭から正面に出られるよう通路の整備をされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれが思い思いの場所で過ごせるように、ソファや椅子、コタツがあり、また裏庭に面した濡れ縁でひなたぼっこや、おしゃべりを楽しむことができる。あちこちに椅子が置いてあり思い思いに過ごせるスペースがある。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>タンスやコタツ、テレビ等本人の使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。御家族の写真や誕生日の色紙、花等好みの物が飾られており安心して過ごせる場所になっている。仏壇や信仰の対象物を持ってこられ、落ち着いた生活をされている方もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、タンスやテレビ・趣味の本等も持ち込まれており、居室でくつろいでいる方も見られた。お誕生日の手作り色紙を数年分飾っておられる人もいる。各居室には季節の花が生けられてあり、職員の心遣いが感じられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>要所に手すりを設置し、出来る人には洗濯物を自分で干せるよう物干しの高さを調節し、安全で使いやすく自立した生活が送れるよう配慮している。各居室にはわかりやすい表札があり、入り口には好みののれんが掛けてある。家庭的な雰囲気を壊さないよう、場所違い、混乱等を防ぐ工夫をしている。</p>	